

インド原産植物「モリンガ」 機能性表示食品に

上天草市で食品製造などを手掛ける「アマーサ」は17日、インド原産の食用植物「モリンガ」の葉を粉末にした食品を、機能性表示食品として月内に発売すると発表した。

同社は「天草モリンガファーム」のブランド名で約10年前からモリンガを栽培、加工。2015年に機能性表示食品制度が始まったのを機に、付加価値を高めようと機能性表示の検討を進めてきた。

モリンガに含まれる成分のうち、ストレスを抑えて血圧を下げる作用があるとされる「GABA」に着目。

崇城大や県産業技術センターに分析を依頼



モリンガを使った機能性表示食品の発表会に出席した（右から）アマーサの四方田徹社長、崇城大の西園祥子准教授、県産業技術センターの佐藤崇雄研究主任＝17日、熊本市西区

し、GABAを含むことや機能性の根拠となるデータを得た。結果を消費者庁に届け出て、同庁ホームページに掲載された。モリンガは県内で栽培。粉末は青汁のように水に溶かしたり、菓子に混ぜたりする。2ヶ月入り30袋4968円。県内の物産館などで順次発売する。熊本市の崇城大であった発表会で、四方田

徹社長は「熊本発の全国ブランドに押し上げ、規模を拡大して耕作放棄地解消にも貢献したい」と話した。（福山聡一郎）